

# FACE

6号館2階 交流スペースにて  
 <こども教育コース>について語り合う地域こども学科2回生



加賀 泰一朗 さん  
 奈良県立十津川高等学校卒業

木森 英之 さん  
 奈良県立郡山高等学校卒業

竹内 哲平 さん  
 大阪電気通信大学高等学校卒業

# VOICE

<超ハード>なカリキュラムは、毎日が真剣勝負。  
 こども教育コースの2年間を支えるのは、出会いとつながり。

### こども教育コースのいいところは？

加賀 「正直言うと、スケジュールは超ハードです。想像していた花のキャンパスライフとは180度違って、授業、課題、実習が続いて、もう1日1日が真剣勝負です。しんどい時もあるんですけど、自分の身になってるって実感できます。充実感、最高です。」

木森 「同感ですね。あと、学外に出かけて現場を見学したり、自分たちで実践させていただいたりすることも多くて、そこで出会う子どもたちや先生たちから学んだことがたくさんあります。」

竹内 「学外での実践は、本当に心に残りますね。子どもの頃は自分が先生の話

聞く側にいたのに、幼稚園に訪問して、初めて子どもたちの前で自分が話す側に立った時の感覚、園児たちのキラキラした表情、忘れられないです。」

加賀 「そうですね、僕らの力が全然足りない状態で現場の先生や子どもたちと出会って、その度にちょっとずつ自分たちで背伸びしたくなって。それを繰り返しながら少しずつ成長していくところがこども教育コースのいいところですよ。」

竹内 「そういうところを大学の先生もちゃんと見てくれているっていうよさもあります。私は別の大学に通った経験もあるんですが、奈良佐保は小ぢんまり



とした短大です。でも、その分、先生たちのあたたかさが感じられるし、親身になって向き合ってくれるのが励みになります。学生同士もそうですし、職員さんも顔の見えるあたたかい関係です。これは、他の大学ではなかなか味わえない感覚だと思いますよ。」

### 卒業に向けて、将来の夢は？

竹内 「僕は、小学校で教員として働いていきたいです。子どもとともに学び、ともに遊び、ともに歩んでいけるような先生を目指します。卒業まであと一年、まずは小学校での教育実習に全力を尽くします。」







4



1



3



2

## 知る喜び、学ぶ楽しさが生まれる学生たちの〈居場所〉

今号より、奈良佐保短期大学の魅力あふれる職員から受験生の皆さんへリレー形式でメッセージをお届けします。では、トップバッターの図書館の紹介からスタートです！

能瀬 「学生の利用しやすさを第一に考えた、明るく楽しい図書館です。〈知る喜び、学ぶ楽しさ〉をコンセプトに掲げた『きらっと☆図書館講座』も大好評で、10年以上も続いています。」

黒田 「友だちと一緒に調べ物をしたり、私たちに『ちょっと話を聞いてほしい!』と会いに来てくれたり、窓から見える景色を眺めながら考えごとをしてみたり、学生の皆さんにとっての〈居場所〉の一つになっています。入ってすぐ全体を見渡せて、どこかあたたかい、なつかしい感じがする図書館です。」

学生の皆さんへのかかわりで大切にしていることは？

能瀬 「例えば、文献検索ひとつとっても、インターネットの普及でとても便利な世の中になりました。だけど、だからこそ私たちが大切にしているのは、答えを手早くラクに見つけることじゃなくて、どうやったらその答えを探し出せるのかを考えていくプロセスです。そのプロセスのおもしろさを学生の皆さんに経験してもらうことを大切にしています。」

黒田 「学生の皆さんが一步踏み出すつながりやきっかけを提供することも大切にしています。実際に『きらっと☆図書館講座』をはじめ、図書館で生まれたつながりが学生たちの活動を地域に広げたり、就職活動を後押ししたりすることもある

- 1 図書館司書の能瀬澄美さん(左)と黒田典子さん(右)。二人の守備範囲は、文献検索から人生相談まで幅広い。
- 2 なつかしい絵本や児童書と再会して、思わずこぼれてしまう笑顔。
- 3 図書館の中に入った瞬間、あたたかい雰囲気にも包まれます。
- 4 新入生対象の図書館講習の一コマ。ここから知る喜び、学ぶ楽しさが広がっていくんですね。

んですよ。」

では、受験生の皆さんにメッセージをお願いします。

能瀬 「そうですね、興味のあることに突き進んで、自ら一步踏み出して進路を切り拓いてほしいです。そうすれば必ず先につながります。でも、まず最初の一步がしんどいこともありますよね。そこは小さな一步でも、大丈夫。踏み出せば、必ず何かが起こるはずですよ。その一步からは、私たちが応援していきます。」



「プチアセビ」のバックナンバーもご覧いただけます。

